

## 『川田さんと野崎さん』

川田さんには、野崎さんという高校時代からの友人がいます。彼とは部活が一緒であったということもあり、互いに悩みを話し合い、励まし合い、時にはぶつかり合った仲でもありました。そんな彼とは、卒業後も付き合いがあったのですが、それでも、自分がHIV感染者であるということを打ち明けることができないでいました。

「野崎に、話せたらなあ・・・」

川田さんは自分の将来のこと、HIVに感染していること、そしてその苦しい胸の内を話し、力になってほしいと思いつつも、そのことで迷惑をかけたくないとも思い、悩んでいました。

ある日、夕暮れの街を二人で歩いていました。いろいろ話をしていましたが、だんだん会話が少なくなっていました。

「川田、何か話したいことがあるんじゃないのか？」

いつもとちがうその様子に、野崎さんは気がつきました。

「話せるのは、今しかない・・・」

と、決心した川田さんは、思い切って打ち明けました。

「実は僕・・・HIVに感染しているんだ」

精一杯の声のつもりが、小さな声になってしまいました。

それを聞いたとたん、野崎さんは、「えっ」と言ったまま、歩みを止めてしまいました。しばらく下を向いて、考え込んでいましたが、ぱっと顔を上げ、真剣な目つきで川田さんに向かって言いました。

「そうか・・・でも、同情しないからな」

とだけ言うと、先ほどと変わらぬ速さで歩き始めました。

二人の後ろ姿が、明かりがつき始めた街の人混みの中に消えていきました。

※「NHKクローズアップ現代（1995,5,9放送）」

新英語教育1997年12月号「川田龍平氏特別記念講演記録」

以上に基づく自作資料